



広い市域をサポート願う

日ごろ地域を回っている郵便局職員にまちの監視や情報提供、支援協力などをお願いする覚書の締結式が3月1日、市役所で行われました。市と市内郵便局とでこの日締結された覚書は「走るこども110番」「災害支援協力」「道路損傷等についての情報提供」「廃棄物の不法投棄等の情報提供」の4つ。塚田理恵那郵便局長は「通報が少なく済むことが望ましいが、市と協力して住みよいまちづくりに貢献したい」と話していました。

市長と市内の郵便局長が4つの覚書に署名した

恵那鉄道少年団が誕生

3月5日、市役所会議棟で恵那鉄道少年団の結団式が開催され、全国で54番目の鉄道少年団が誕生しました。少年団は、明知鉄道沿線で鉄道好きの小学生から高校生までの15人で結成され、駅や鉄道周辺の清掃、マナーの向上などの活動を進めます。団長に赤尾袈夫さんが委嘱され、団員を代表して阿木高校2年生の鶴飼雅人さん（長島町中野）が「いろいろな活動を協力し合ってがんばりたい。」と決意を表明しました。

恵那鉄道少年団の団旗を受け取る赤尾袈夫団長



防火の心得学び巣立つ

少年消防隊の修了式が3月6日、文化センターで行われました。式では、市長が「修了しても引き続き消防団の活動をよく理解し、周りの人に伝えてください」とあいさつ。伊藤春正消防団長は「研修で学んだことを災害時に活かしてほしい」と述べました。少年消防隊は旧恵那市の小学4～6年生110人で構成。消火訓練や防災センターの見学を通じて、火災予防を学んできました。この日は6年生隊員33人が、修了証を受け取りました。

修了隊員を代表して長島小の荒川知子さんが防火を誓った



本格キムチのコツ学ぶ

2月25日、山岡農村婦人の家でまめまめ講座「簡単キムチづくり」が開かれ、22人が本格的なキムチ作りに挑戦しました。基本となる白菜の塩漬けのコツから、いわしエキス、エビの塩辛などの材料選びなど分かりやすくユーモアを交えて実演され、楽しくキムチ作りを学びました。真赤なキムチの具を一枚一枚白菜の葉に挟み、丸めると受講生の手も真赤に。「辛さの中にも甘みがあっておいしい」と一同大満足の味に仕上がりました。

トウガラシを混ぜて真赤なキムチの具を作ります

各地に伝わる芸の競演

市内の各地で伝承されている郷土芸能を一堂に会した伝統芸能大会が2月27日、文化センターで開催されました。10団体、約140人が舞台上がり、日ごろの練習の成果を披露しました。

恒例の各界名士によるお目見得だんまりには、商工会議所副会頭の山田基さんら9人が出演。華やかな衣装で口上を述べ、決めのポーズをとると会場から盛んに拍手や声援、おひねりが飛んでいました。

大井町岡瀬沢地区に伝わる浅間七福万歳



水の検査は自らで

安心して飲める水道を確保するため、市では水道水質モニターを設置し、毎日、家庭の給水栓で色、濁り、残留塩素の監視と検査をお願いしています。2月28日のモニター研修会では、恵那農業高校の森本達雄先生が水生植物によるダム湖の水質浄化実験の様子を報告。阿木川ダム管理所の工藤勝弘所長からは、ダム湖の水質保全事業が説明されました。その後、阿木川ダムと大崎浄水場を見学し、検査方法などを意見交換しました。

大崎浄水場の見学では膜処理による浄化法を説明





温故知新の精神を受け継ぐ

中学生に郷土の歴史や偉人の教えを伝え、これからの人生を創造していく機会にしておらおうと3月17日、岩村振興事務所で「知新の集い」が開かれました。地域の大人たちが見守る中、岩邑中学校の1年生61人全員が、将来の夢を順に発表しました。

知新の集いは伝統ある岩村町で生まれ、育ち、大きな気概を持って社会を背負って立つ人間に成長できるよう、町関係者が中学生を応援する恒例行事として定着しています。

「社会のために学んで」と言志録の一節を説く勝川哲男さん



毛呂窪小132年の歴史に幕

毛呂窪小学校体育館で3月6日、毛呂窪小学校と毛呂窪へき地保育園の閉校・閉園式が行われました。式では、森川経子小学校長と鈴村暁子保育園長が、あゆみを振り返りながら、地域住民へ感謝の言葉を述べ、園児や児童たちは、たくさんの思い出を歌や言葉で発表しました。式には、地元笠置町毛呂窪区の関係者ら約350人が出席。最後に全員で校歌を歌い、132年の歴史と長年親しんできた木造校舎への別れを惜しんでいました。

全校児童29人が楽しかった思い出を歌と言葉で発表した

事業活動も地球に優しく

3月18日、市と県、リコーエレメックス恵那事業所の3者間で環境創出協定が締結されました。地域的な公害防止だけでなく、地球規模の環境保全対策も含めて維持管理と将来の目標値を設定し、そのための行動計画や結果をインターネットなどで公開していこうというもの。リコーエレメックスの北澤昭夫恵那事業所長は「環境のトップランナーとしてモデル事業になるよう、頑張っ取り組んでいきたい」と決意を表明しました。



左から可知市長、北澤恵那事業所長、大野県東農地域振興局長

卒業記念に苗木を植樹

東野小学校の6年生17人が3月10日、保古の湖キャンプ場近くの山林で卒業の記念植樹をしました。東野生産森林組合の与合和武組合長から「大事に植えてあげてください」と言われた児童たちは、要領を教わりながらスコップやつるはしで穴を掘り、ケヤキやハナノキの苗木を植えていきました。植樹を体験した東野小6年の西尾幸子さんは「もっと簡単だと思っていたけど、土が固く、コツが要り、難しかった」と感想を話していました。



ケヤキ、ハナノキ、トチノキの苗木50本を卒業記念に植樹



総合計画策定スタート

新市のまちづくりの指針となる総合計画策定に向け、3月23日市役所で第1回総合計画審議会が開かれました。公募委員5人を含む委員30人が出席。会長には有本信昭岐阜大学教授、副会長には大井守男市自治連俣理事会座長が選出されました。市長は「行財政事情は大変厳しいですが、皆さんの英知を結集して素晴らしい計画をお願いします」とあいさつし、有本会長に諮問書を手渡しました。総合計画は本年度中の策定を目指しています。

有本信昭会長に総合計画策定を諮問



自然に包まれ新校舎完成

恵那北小学校の校舎と屋内運動場が完成し、3月15日、完成式が行われました。新しい校舎は、鉄筋コンクリート造り3階建て。バリアフリーや児童の安全に配慮された構造で、地域の生涯学習の拠点施設としての役割も担っています。総事業費は約12億円。本年度は引き続きグラウンドの造成とプールの建設が予定されています。恵那北小学校はこの4月から毛呂窪小学校と統合され、全校児童97人がピカピカの校舎へ通学します。

テープカットで新校舎の完成を祝う